



「違い」を「よさ」として受容し合いながら

校長 野間 義晴

校内では先月、作品展が行われ、学校全体が美術館のようになりました。それぞれの学年の作品が誇らしげに飾られていて、どの作品も素晴らしかったです。それぞれの作品をじっくり見ると、その作り手の思いや願いを感じ取ることができます。どんな気持ちで書いたのかな、どうやって色を重ねたり、版画を彫り、刷ったりしていったのかな、と思いを巡らすひとときでした。

「どんなふうにつくったのかなあ。」鑑賞している子どもから思わずもれた声でした。きれいだな、じょうずだなと思うところから、どこからそう思ったのか、自分なりに考えているからでしょう。そして、なぜ、そのように感じるのか、考えながら作品を見ていくと、鑑賞のおもしろさや楽しさに気付いていきます。作品を鑑賞するなかで、いろいろなものが見えてきます。感じられます。

図画工作科では、自分で感じ、思い、考えたことを表現できるところがすてきなところです。そのためには、どのような表現も尊重し認めてもらえるという、先生や教室の仲間との信頼関係が根底になければなりません。表現や鑑賞の活動を通して、他者との「違い」を「よさ」として受容し合いながら、その「違い」から学び合う中で対話的な学びが生まれます。図画工作科に限らず、学びにおいて、お互いに信頼し合える仲間が形成されていくということが重要なのです。それは、落ち着いた学校生活を醸成することにつながり、学校教育目標である「こころゆたかな菊名の子」に結び付きます。このことが「社会に開かれた教育課程」の実現に向けての土台となり、今年度も家庭や地域と協働しながら教育活動を充実させていくことができました。

年度の締めくくりとして、これまでのクラスや学校での活躍がたくさんありました。これからの子どもたちの人生に生かせるよう、子どもの実態に寄り添い、一つひとつの活躍への振り返りを大切にしながら、学校教育目標の実現に向けてよりよい教育活動を目指していきたいと思えます。今年度の教育活動に、保護者・地域の皆様のご理解とお力添えをいただきましたことに心より感謝申し上げます。



※「ふるさと納税」による本校へのご寄付があり、図書の実用に活用させていただきました。深く感謝申し上げます。ありがとうございました。